

## 第 509 回友の会講演会 質問と回答

第 509 回友の会講演会（2/6 開催）はオンライン配信限定で開催いたしました。  
参加者のみなさまからの質問と講師からの回答を、以下のとおり公開いたします。

（2021/03/05）

### ■ 質問者 A 様

ジェンダーとエスニシティに関して質問させていただきます。

（1）

文化週間では多数の女性が運営から来賓への応対など活躍したとのお話でした。他方で、季刊民族学などにはソニケは父系社会で伝統的な大家族を維持しているとも書かれています。伝統行事がかえって男性優位の伝統を強化する側面もあると思います。文化週間は、ソニケの女性を男性に従属的な因習的地位から解放するきっかけになっていますか？

### <講師回答>

ご質問、ありがとうございます。

ソニケ社会についての深い理解をお持ちゆえのご質問ですね。たしかに文化週間によって女性の社会的な地位が変わる可能性はあります。そもそも映像のなかでも説明されていたように、「文化週間」そのものが地域ラジオの運営費を生み出す手段であり、労働移民の多い男性不在の地域で、地域ラジオが女性たちに協力を仰いだという事実があります。ただ、この事実をもって何を語るのかは留保が必要であり、女性の地位の変化だけが注目されうるとは思いません。むしろ女性の地位の変化が見られたときにはじめて、「文化週間」での活躍がひとつの要因であったという解釈が可能になると考えています。

（2）

セネガルの民族構成をみるとウォロフが多数派でソニケは5%に満たない少数民族です。ただ少数ながら、かつてはガーナ帝国を成し、現在も世界中から外貨を稼ぐ誇り高き人びとです。同胞はマリやモーリタニアにも居ます。この文化週間の成功が、同国内の民族間の力関係に新たな緊張や軋轢を生む可能性はありませんか？

### <講師回答>

ご質問ありがとうございます。

ソニケ民族が多く居住する国境地帯のセネガル河上流域では、1989年に牧畜民と農耕民の諍いから二国間の紛争につながる事件がありました。そうした過去を反省して、「文化週間」では「ひびけ連帯の声」というスローガンを掲げて、地域の民族の共生と連帯を呼び掛けています。また、国内の民族間の力関係については今後の成り行きを見守る必要があります。主催者側は、文化という力で政府と交渉することを目的のひとつにしています。しかしこれは隠れた意図であり、このあたりに賢明で巧妙な戦略があるように思います。

## ■質問者 B 様

文化週間が女性グループや労働移民にならなかった男性に与える文化的・社会的影響についてですが、彼女ら/彼らは弱い立場にあるところ、伝統文化の再認識を通じて、自己のアイデンティティ確立、地域社会との繋がり確認・孤立化の防止にも結びつく。また、労働移民にとっても、ネットラジオを通じて故郷の伝統文化・地域社会との繋がりを認識でき孤立化を防ぎ、ひいては過激思想から守ることもなると考えられるでしょうか。

一方、篤志家が大口の寄付をするのは、宗教的な理由、あるいは社会的威信を高めるといふより、明確に意図的ではないにせよ、上述のようないわば地域社会・民族全体で大きなセーフティネットが形成され、結果、反射的效果として自身の利益にもつながりうるからとも考えられるでしょうか。

### <講師回答>

ご質問ありがとうございます。

どの問いにもそうでもありうるとお答えいたします。というのは、ある現象を理解する枠組みは無数にあり、自分が何を導き出したいかによって枠組みは恣意的に設定できるからです。ただその中でもなるべく中立的な立場で判断したいというのが私たちの仕事になるかと思えます。そのために文化人類学ではなるべく当事者の語りを大切にします。そのうえで観察者の立場から「文化週間」を説明するとすれば、行事全体の公式な目的や隠された目的に関わらず、参加者にはそれぞれの意図があるという点が重要です。つまり分析する側が何を考えようとも、当事者の思いはそれとは別にしかも現実のものとしてあるということです。現実のものとしてあることをなるべく中立的な立場で描きたいという思いで映像番組を制作しました。

## ■質問者 C 様

セネガルは 2005 年津軽三味線演奏会でダカールを訪れており、合間を見てメディナのサンダカ市場、IFAN 民族学博物館、ゴレ島の奴隷博物館などを見て回り今でも強烈な思い出があります。その中でグリオの存在を知りました。ダカールにはプロのグリオアンサンブルがあると知り、どんな内容なのか興味がありました。それがオンラインで見られて本当に良かったと思えました。アフリカどこでもいる放浪芸人ではないかと思えました。

三島さんにお伺いしたいのは「どのような時に演じられるのでしょうか」「何名の編成で楽器、踊り、男女別」「ほどこしである出演料金はお幾らですか」「ダカールには何団体のグリオグループがありますか」「精霊などその他の民族芸能はありますか」。

### <講師回答>

ご質問ありがとうございます。

日本とセネガルで三味線を通じた交流があるとは知りませんでした。そこで伝統的楽師であるグリオと接する機会があったのですね。グリオは世襲制の職能集団で、伝統的には民族や家族の歴史を語り継ぐことを生業としています。ワールドミュージックの流行にのっ

て、世界的に有名になったアーティストも出てきています。

グリオは儀礼や祭りをはじめ、さまざまな行事に出て演奏します。呼ばれて行くというよりも、行くことがかれらの権利です。たとえばAグリオ家はA A家に帰属しており、A A家で何かあれば必ずAグリオの出番となります。編成は機会によって異なりますが、男性が楽器演奏をすることが多く、朗読や踊りは男女でおこなわれます。楽器にも大小の太鼓、ハープのようなコラという楽器、木琴やギターなどがあります。グリオが得る収入は、どれだけ人びとを感動させたかによります。またたとえばAグリオがA A家の歴史を朗読すれば、家の主人はそれなりのお礼をしますが、その額は行事によっても、家によっても異なります。セネガルでは国勢調査をするときに社会身分を区別しないので、グリオの家系がどのくらいいるのかは知ることはできません。しかしどの家にも専属のグリオが存在します。精霊信仰はセネガルでは隣国マリに比べると少ないようですが、民族によってはそういった習慣をもっています。精霊は民族芸能ではなく信仰であり、病気を治したり、相談事を解決したりする目的で人びとが集い、精霊憑依によって解決するというものです。